

令和6年度 宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校（全日制） 【自己評価及び学校関係者評価】

《 4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する 》

教育目標									
1 知徳体の調和のとれた人材の育成を目指す。 2 校訓「正義」「寛容」「実行」を具現化し、21世紀を担う人材の育成を目指す。									
重点目標	評価項目	計画(Plan)	実行(Do)	評価(Check)		改善(Action)	学校関係者評価		
		重点努力目標（評価指標）	方策・手立て（数値目標）	学校自己評価	総合	結果と考察・改善	評価	評価コメント （評価できる点、改善して欲しい点）	
(1)生徒一人一人の学力を最大限に伸ばし、現役合格にとらわれない真の進路実現を図る	基礎・基本の定着と学力向上	①面白くするために生徒が感じる探究型授業の構築と学びに向かう姿勢の確立【リサーチ・シンキング】	(ア)基礎学力の向上（個別最適な学びの研究）	4	4.0	生徒の学びに向かう姿勢を高めるために、探究型授業を推進している。教科代表者を中心に各教科で授業研究を進めていた。探究型授業を進めるためには、基礎的基本的事項の定着は必須である。定期テストに向けて、2週間前にはテスト範囲と日程を連絡し、計画的に学習を進めるよう手立てをとった。計画・実行、振り返りのサイクルを確立させ、思考するための土台を作り、3年間で自走できる生徒育成していきたい。ロイノートなどICTを活用して生徒の質問に答えるなど、個別最適な学びのためのフォローも行っている。	4.0	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。 ・生徒が自ら学び探究する環境を整えることを積極的に取り入れる姿勢が認められる。今後は、今までの教育効果との比較検討をしていく必要があると思う。 ・本年度の実績が喜ばしいものである。	
			(イ)自宅学習の充実（予習・復習・課題の研究、自走化の推進、ICT活用による学習履歴の蓄積と活用、オンライン授業の研究）						
			(ウ)探究型授業の推進（生徒自らが問いを立てる授業、課題解決型授業、教科横断的授業の研究・実践）						
			(ア)3年間及び6年間を見通した探究型学習への挑戦 (イ)他の分掌との連携による研究授業・授業公開の工夫・改善 (エ)ICTの活用を含んだ授業研究と教科研修会の充実 (オ)自立した学習者の育成や教師の指導改善につながる授業評価の工夫と改善						
	進路支援の充実	①進路意識の高揚【リサーチ・シンキング・コミュニケーション】	(ア)附属中学校との連携 (イ)DX委員会と各校務分掌との連携・分担 (ウ)学校のニーズに応じた効率的なデータ整理と校内での情報共有 (エ)校務支援システムの運用と活用による生徒情報等のデータ処理の推進 (オ)グループウェアを活用による共通理解とペーパーレス化の実現	4	2.6	・SSH指定校となり、探究型授業を全校体制で進めていくため、1学期は7/5（金）～7/22（月）、2学期は10/11（金）～11/15（金）の期間中に「生徒が主体的に学ぶ『いずみGS探究型授業』への挑戦」をテーマとした研究授業・授業公開を実施した。3学期は1/20（月）～3/14（金）の期間中に相互参観キャンペーンを行い、授業力向上を図っている。 ・「We are 泉ヶ丘」の発行により、2ヶ月前には行事予定を校内や家庭に示し、学校全体が先を見据えて計画的に行動できるように情報共有を行った。また、必要な情報については、ClassiやClassroomなどを用いて全体に連絡し、ICTも有効に活用した。校内の会議についても、可能な限りペーパーレス化を進めた。	3.0	・SSH事業を軸にした進路指導の展開が今後必要だと感じた。 ・進路指導専門カウンセラーとかを設置できるといいかもしれない。 ・共通テスト直後の進路相談が混み合っているという印象があった。 ・進路の手引きの配布が大幅に遅れた背景はわからないが、生徒や保護者のためにも今後は予定通り配布できるように体制の構築をお願いしたい。 ・進路指導に関しては、先生方が多岐多岐の職務を把握して、人生をいかに充実した道を歩くべきか、いろいろな情報を提供していただきたい。	
			(イ)他分掌との連携・分担による働き方改革とチーム学校の強化 (ウ)附属中学校、定時制との連携を深め、一つの学校としての一体的な体制構築 (エ)分掌内での適正な分担による個人の負担軽減						
			(ア)進路目標の早期決定と各種模試・検定等への挑戦を支援する (イ)職業観、人生観を構築していく過程で「探究心」・「レジリエンス」の涵養を図る (ウ)キャリア教育、大学出前講座、職業講話、各種講演会等を実施する						
			(ア)3年間、および中高6年間を見通した進路指導計画を策定する (イ)SSH事業に伴う「探究活動」の効果的な活用を図る (ウ)「いずみGS」を意識した支援を行い、資質・能力の育成を図る (エ)難関大学、学部を志望する生徒の支援を実施する (オ)高大接続に伴う入試制度改革に対応した進路支援を計画・実践する						
			(ア)テスト成績の分析、評価、授業、進路支援のサイクル改善に活かす (イ)進路便り「汲泉」等で、役立つ進路情報を生徒・保護者に提供する						
			(ア)実力考査、校外模試の見直しとその充実を図る (イ)学力検討会、判定会、各種研修会（四校連等）の充実を図る						
進路支援の充実	②進路資料の収集と提供【リサーチ・シンキング・マネジメント】	(ア)「進路の手引き」「大学入学共通テストを受験して」「合格体験記」等の効果的な活用をする (イ)内規にもとづき、推薦入試等の基本方針に対する共通理解を深める	2	2.6	模試の分析方法について観点からの視点を取り込み、授業で活かせるよう改善を図ってきた。進路情報についてはGoogle Classroomを活用して、生徒や保護者に進路に関する情報を提供した。	3.0	・SSH事業を軸にした進路指導の展開が今後必要だと感じた。 ・進路指導専門カウンセラーとかを設置できるといいかもしれない。 ・共通テスト直後の進路相談が混み合っているという印象があった。 ・進路の手引きの配布が大幅に遅れた背景はわからないが、生徒や保護者のためにも今後は予定通り配布できるように体制の構築をお願いしたい。 ・進路指導に関しては、先生方が多岐多岐の職務を把握して、人生をいかに充実した道を歩くべきか、いろいろな情報を提供していただきたい。		
		(ア)実力考査、校外模試の見直しとその充実を図る (イ)学力検討会、判定会、各種研修会（四校連等）の充実を図る							
		(ア)「進路の手引き」「大学入学共通テストを受験して」「合格体験記」等の効果的な活用をする (イ)内規にもとづき、推薦入試等の基本方針に対する共通理解を深める							
		(ア)いじめアンケートを年3回実施するとともに、SC・SSWとの連携を密にし、いじめの未然防止・早期発見に努めた。 (イ)FITS（本校独自の新生入生オリエンテーション）を通して、安全・安心な学習環境づくりと高校生活の適応を図っている。							
		(ア)挨拶や服装容姿をはじめ、交通安全やルール順守の態度育成について、教師相互の連携を密に取りながら常時指導に努めた。自転車通学生と自動車との事故件数は昨年度の12件から9件に減少（1月末時点）。自転車ヘルメット着用推進については、校長はじめ生徒支援部からPTA総会、始業式・終業式・全校集会等を通して計画的に啓発を行った。ヘルメットの仕様を定めたことで、購入と着用の推進につなげた。							
		(ア)中高合同でいじめ・不登校対策委員会を週1回開催し、情報の共有と早期発見早期対応に努めている。 (イ)面談週間の設定や学年通信の発行、Classiを利用した保護者への情報発信等を積極的に行った。							
いざみ自尊心和S人を権威感とする養	規範意識の向上と生徒支援の充実	①人権意識と自己肯定感の醸成【シンキング・コミュニケーション・チームワーク】	(ア)教育相談部の新設とその充実 (イ)FITS、人権学習、情報モラル教育の計画的な実施 (ウ)いじめの未然防止・早期発見（面談、アンケート、SC・SSWの活用） (エ)教育相談部通信・生徒支援部通信発行による情報発信 (オ)職員研修の実施（生徒理解 対処法研修等）	4	3.6	・いじめアンケートを年3回実施するとともに、SC・SSWとの連携を密にし、いじめの未然防止・早期発見に努めた。 ・FITS（本校独自の新生入生オリエンテーション）を通して、安全・安心な学習環境づくりと高校生活の適応を図っている。 ・挨拶や服装容姿をはじめ、交通安全やルール順守の態度育成について、教師相互の連携を密に取りながら常時指導に努めた。自転車通学生と自動車との事故件数は昨年度の12件から9件に減少（1月末時点）。自転車ヘルメット着用推進については、校長はじめ生徒支援部からPTA総会、始業式・終業式・全校集会等を通して計画的に啓発を行った。ヘルメットの仕様を定めたことで、購入と着用の推進につなげた。	3.8	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。 ・自転車ヘルメットがどうなるかと思うが、これは国とか県がどうするかだと思う。 ・社会の中で自己主張と相手の思いやりの精神に関してバランスの良い姿勢が取れるように導いていただきたい。	
			(ア)日常的なあいさつ・服装・身だしなみの自己管理 (イ)問題行動の未然防止、問題行動への迅速かつ組織的対応 (ウ)交通安全の意識向上（自転車ヘルメット着用の啓発） (エ)集団規律やルール遵守の態度育成						
			(ア)学年会・教育相談部との緊密な情報交換（生徒理解と情報共有） (イ)附属中学校との連携を密にし6年間を見据えた生徒支援を構築する (ウ)保護者への迅速かつ丁寧な対応（面談・通信・Classiの充実） (エ)地域及び関係機関との連携						
活動に自動も治を力活推を動進を入れた学的文探進究	文武運動の推進	①生徒会総務の育成及び【マネジメント・チームワーク・レジリエンス】	(ア)生徒会総務及び各種委員会の活性化（自走する集団の育成） (イ)生徒会行事の充実（各種実行委員会の活性化） (ウ)自治活動の推進（校則改定、制服改定、ヘルメット着用、防災訓練、感染症予防など）	4	4.0	・生徒会総務および各種委員会が活性化するよう、顧問教師が生徒に伴走し、寄り添う支援を実践した。その成果として、自動販売機の使用時間、私服防着やハンディファンの使用マナー、ネクタイ・リボアの導入等について生徒自らが問題意識をもって、組織的に見直しや検討する場面が随所に見られた。自転車ヘルメットは、交通安全委員会が啓発運動を行い、新規の着用者が微増した。 ・各部活動が、年度はじめに部活動年間計画（休日の設定）を行い、本校HP上に公開している。2学期は、部顧問と部活動生にアンケートを実施し、部活動の活性化と健全化の向上に役立てた。文化部、運動部の両方で九州大会出場実績があり、部活動入部率も各学年とも8割以上を維持している。	3.8	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。 ・SSHについて校外へ効果的に発信する事が今後の課題かと思う。 ・広報がもっと上手く活用出来たら良いと思う。 ・常に機会あるごとに、本学の情報を因りたく提供する努力を続けてほしい。	
			(ア)心身共に健全な部活動生の育成 (イ)計画的な休業日（週あたり平日1日、休日1日、年間100日以上）を設定し生徒に時間を返す (ウ)生徒主体の活動推進のための支援（自走する集団の育成）						
			(ア)地学を含む自然科学部の新設 (イ)SSHとの連携 (ウ)放課後ラボの新設と活用促進						
(4)本校の魅力を開発し、その発信と広報活動を充実させる	学校デザインの継続的検討	①教育活動全般の企画・調整【カリキュラム・マネジメント】	(ア)SSHを軸とした教育課程の検討・改善 (イ)教育目標達成のための行事の精選（テスト含む）と働き方改革 (ウ)評価のありかたの検討（定期考査から単元テストへの転換研究） (エ)職員研修の企画・運営	4	3.7	新入生より新教育課程で実施中。変更が生徒にとってマイナスにならないよう、授業改善のための議論と実践を充実させた。授業以外は校務のシム化を図り、職員の負担感を軽減する取組を行った（評価シート・データベース作成等）。次年度に向けた協議・検討も早期に行い、定期考査の一部を単元テストへと置き換え、授業時数の確保等を行う予定としている。 各教科科目に委ねられていた「授業」を、理念や方法についての共通理解を学校全体で行い、方向性の共有を行った。「授業改革委員会」を設立し、今後求められる「探究型授業」についての議論を年間通して実施した。その成果を年3回の研究授業・相互参観期間において共有し、個人レベルの協議も活発化した。校外実施の授業研修会にも例年の2倍以上の教員が参加し、情報を得た。授業改革に関する気運は更に高まっている。教員の自主的な学びの機会が増加した。	3.4	・各項目において適切な努力目標を設定し、十分な成果が得られていると感じた。 ・SSHについて校外へ効果的に発信する事が今後の課題かと思う。 ・広報がもっと上手く活用出来たら良いと思う。 ・常に機会あるごとに、本学の情報を因りたく提供する努力を続けてほしい。	
			(ア)探究型授業実践のための授業改革委員会・各教科代表者との連携による情報共有と改善に向けた指針の確認・実施 (イ)研究授業・授業相互参観等の企画及び事後合評会の企画 (ウ)全職員による教科横断的・ICT利活用・探究型授業の推進 (エ)校内外の授業改革に係る研修会の実施および参加推進						
			(ア)生徒の伸長を図るための自己評価アンケートの実施・計画・分析 (イ)外部テスト(河合塾「学びみらいPASS」)を活用した客観的評価の実施・分析						
			(ア)科学技術人材育成のためのSSH事業の企画・実施・分析（SRM、SE、SRP、泉のノリコ、コンセプト、講演会等） (イ)先進校視察及び情報提供 (ウ)中学校とのさらなる連携や理系分野に係る教育活動充実のための計画立案（サイエンス合宿、自然科学部での中高連携） (エ)科学系（自然科学部）部活動充実のための支援 (オ)M S E C（みやざきSDGs教育コンゴリア）との連携						
			(ア)地域企業・自治体・他の教育機関との連携・調整 (イ)「総究」「理数探究(基礎)」の企画・運営・分析 (ウ)校外探究活動の案内及び生徒・職員参加に係る調整						
			(ア)図書館の充実と書籍管理・整理 (イ)理科実験・準備室等の整備と効果的な利用の検討						
			(ア)魅力開発部と生徒広報委員会の新設 (イ)学校案内パンフレット・学校ホームページの充実 (ウ)高校生によるオープンスクールの企画・運営とその充実 (エ)学校公開日の設定と案内 (オ)管内中学校・学習塾との連携と各種説明会の充実 (カ)メディアの活用（宮日新聞、MRT、UMK）						
			(ア)SSHを軸とした教育課程の検討・改善 (イ)教育目標達成のための行事の精選（テスト含む）と働き方改革 (ウ)評価のありかたの検討（定期考査から単元テストへの転換研究） (エ)職員研修の企画・運営						
			(ア)探究型授業実践のための授業改革委員会・各教科代表者との連携による情報共有と改善に向けた指針の確認・実施 (イ)研究授業・授業相互参観等の企画及び事後合評会の企画 (ウ)全職員による教科横断的・ICT利活用・探究型授業の推進 (エ)校内外の授業改革に係る研修会の実施および参加推進						
			(ア)生徒の伸長を図るための自己評価アンケートの実施・計画・分析 (イ)外部テスト(河合塾「学びみらいPASS」)を活用した客観的評価の実施・分析						
(ア)科学技術人材育成のためのSSH事業の企画・実施・分析（SRM、SE、SRP、泉のノリコ、コンセプト、講演会等） (イ)先進校視察及び情報提供 (ウ)中学校とのさらなる連携や理系分野に係る教育活動充実のための計画立案（サイエンス合宿、自然科学部での中高連携） (エ)科学系（自然科学部）部活動充実のための支援 (オ)M S E C（みやざきSDGs教育コンゴリア）との連携									
(ア)地域企業・自治体・他の教育機関との連携・調整 (イ)「総究」「理数探究(基礎)」の企画・運営・分析 (ウ)校外探究活動の案内及び生徒・職員参加に係る調整									
(ア)図書館の充実と書籍管理・整理 (イ)理科実験・準備室等の整備と効果的な利用の検討									
(ア)魅力開発部と生徒広報委員会の新設 (イ)学校案内パンフレット・学校ホームページの充実 (ウ)高校生によるオープンスクールの企画・運営とその充実 (エ)学校公開日の設定と案内 (オ)管内中学校・学習塾との連携と各種説明会の充実 (カ)メディアの活用（宮日新聞、MRT、UMK）									